

令和3年4月26日
長岡市市民協働推進部市民課

長岡市北部斎場の建設について

1 事業の趣旨

長岡市北部地域(寺泊、和島、与板、中之島、三島の各地域)と、出雲崎町が使用している与板無憂苑斎場(昭和49年築)、寺泊斎場(昭和39年築)の老朽化が進んでいます。また同地域では、今後も年間500~600件の火葬需要が見込まれます。そのため両斎場を統合し、新たに斎場を建設するものです。

2 建設予定地

和島地域荒巻区内(別添地図参照)

3 施設の規模

栃尾斎場(平成29年築)と同等規模を想定
敷地面積約2万 m^2 建物面積約1,000 m^2
火葬炉3炉 年間約600~650体の火葬能力

4 建設の動き

令和2年度から事業に着手。令和10年度を目途に供用開始するべく、準備を進めます。

令和2年度は、用地測量、土木基本設計を実施し、令和3年度は用地買収の手続きを開始します。また建設手法、運営手法については、測量などの調査結果等を踏まえて、今後具体的な検討を進めます。

与板斎場は新斎場が稼働するまでの間、業務を継続します。寺泊斎場は当面の間業務を継続しますが、施設の老朽化具合をみながら、閉場時期について地域と協議したいと考えております。

(長岡市北部) 和島地域荒巻区内



長岡市北部斎場について

長岡の北部地域には、新しい斎場が必要です

現施設が老朽化、最新設備に更新する必要があります

長岡市北部地域には、寺泊斎場と与板無憂苑斎場の2つの斎場があり、この2つの斎場は建設されてから10年を超え、施設の老朽化が進み火葬師も小規模な修繕を繰り返しながら運用しています。また、与板無憂苑斎場は新潟県の土砂災害特別警戒区域に存在します。

一方で、現在、長岡北部地域では、年間500件以上の火葬が行われており、今後も同じくらいの火葬需要が見込まれます。

このため、地域の火葬の需要を満たすため、2つの斎場を統合して新たな斎場を整備するものです。



統合斎場の建設予定地選定の考え方

長岡北部地域の中心に位置する場所で、土地の条件や生活環境への影響等を考慮して選定しました

長岡北部地域全域からの利用のしやすさを考えて、地域の中心部を対象としていくつかのまとまった土地を候補地としました。

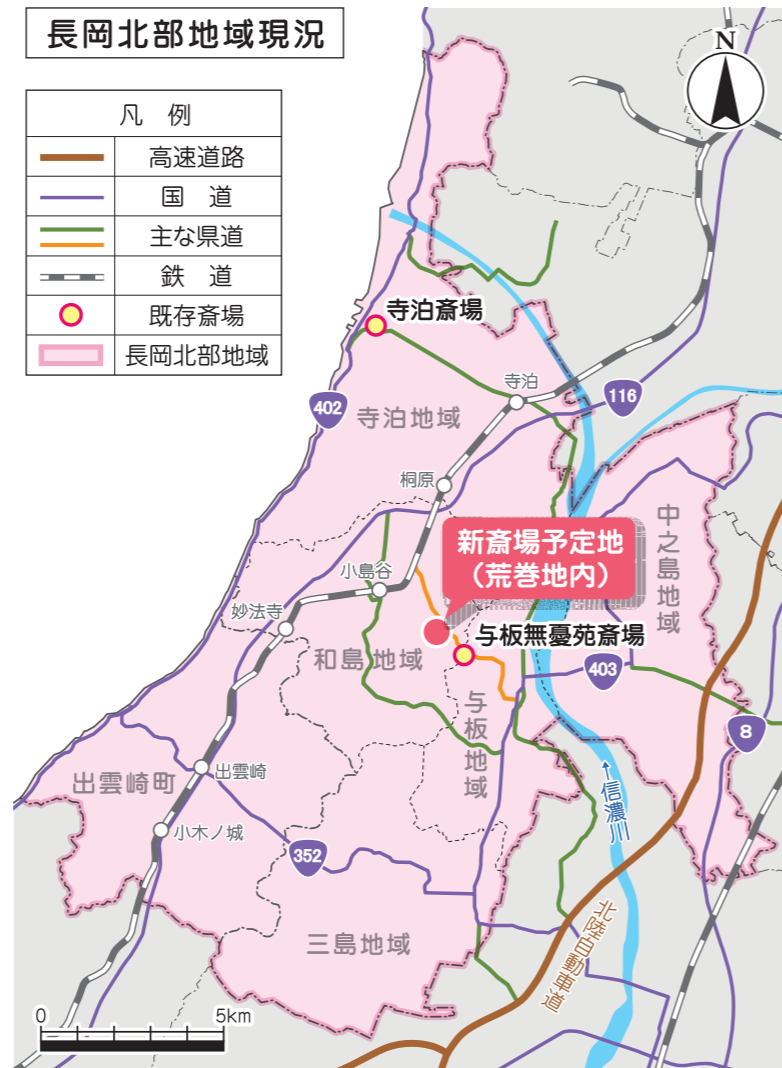
その上で、以下の選定条件を設定し、比較評価して適地を選びました。

選定条件評価項目

検討項目	視点
①土地基盤	・地層(地盤)からみた敷地の安全性
②土地利用条件	・十分な広さがあるか ・法律の規制の有無
③災害リスク	・自然災害(土砂災害・洪水)発生のリスク
④インフラ整備	・幹線道路からのアクセス、上下水道等の状況
⑤生活環境	・森林や農地及び既存集落の状況
⑥使用圏域	・斎場利用地域のほぼ中心にある

長岡北部地域現況

凡例	
	高速道路
	国道
	主な県道
	鉄道
	既存斎場
	長岡北部地域



現代の斎場は…

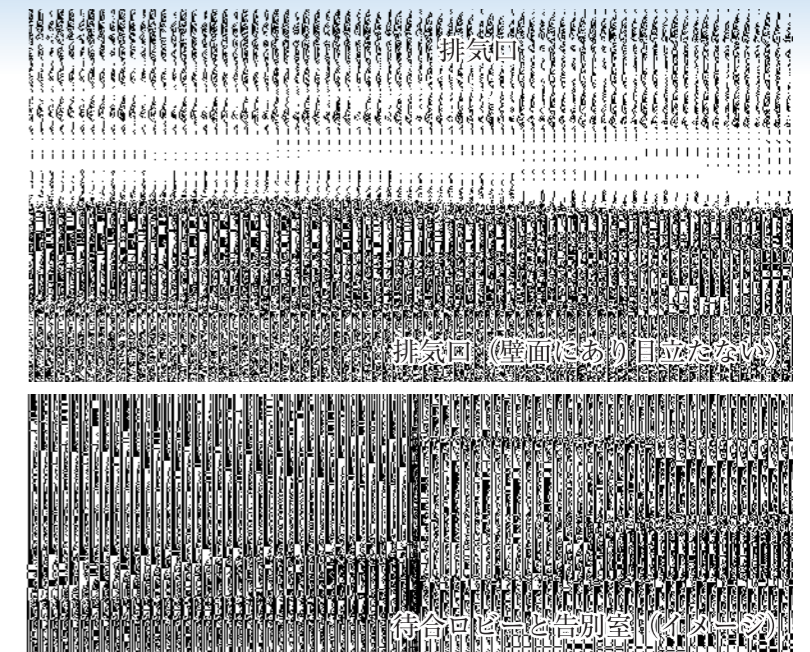
昔の火葬場と全く違います

斎場は、故人と遺族が最後のお別れをする場所で、誰もが必ず利用する公共施設です。

現在の斎場は周囲の環境に配慮したきれいで清潔なつくりとなっています。

火葬炉は燃焼ガスを高温で2回燃焼させるため、施設外に出る排気は環境に配慮したものとなります。また、高性能の集塵機を使って環境に影響のある物質の放出を防ぎます。

このため、昔のような煙突はなく、外部に臭いや煙は一切もれません。建物の景観にも配慮しています。



新斎場の基本コンセプト

- 1) 周辺住民の生活環境に配慮
- 2) 人生の終焉の場にふさわしい設え
- 3) 人と自然環境にやさしい
- 4) 管理運営しやすい
- 5) 災害に強く、安全性や快適性に配慮

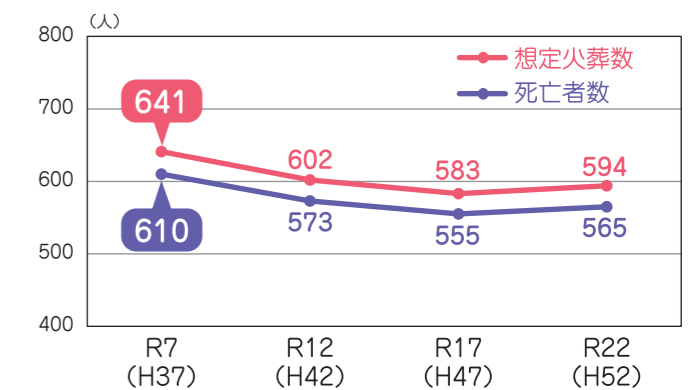
斎場外観(イメージ)

計画される斎場施設(火葬炉の数)は

今後の地域の火葬需要を推計して3基とします

北部地域を含め長岡市の人口は、今後も減少が想定されます。少子化の影響から地域内の高齢化は進みますが、地域内で亡くなる方の人数も今後は徐々に減少する見込みです。

令和7年以降は、年間555~610人が亡くなると想定されます。また、他地域からの受け入れを加えて、最多の年で641件の火葬を想定します。



長岡北部地域の死亡者数及び火葬件数の推計

■ 1日当たりの火葬数

火葬数最多の年(641件を想定) **1日平均: 約2件** (641件÷年間稼働日数302日) **1日最大: 6件** (火葬炉3基を2回稼働)